

小豆島八十八ヶ所発信プロジェクト ～霊場を通して伝える小豆島～

代表者 山本 武 （経済学部経済学科3年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業の目的は、大きく分けて2つある。

1つ目は、新型コロナウイルス感染症によって減少してしまった小豆島を訪れる観光客数の回復に少しでも貢献することである。たくさんの観光客に、小豆島に来て、小豆島の魅力を感じてほしいと考えたときに、私たちは小豆島八十八ヶ所霊場に注目した。いまや日本のみならず外国でも注目されつつある小豆島八十八ヶ所霊場を発信していくことで、より多くの観光客に小豆島に来てもらえるきっかけを作ることができ、観光客数の増加につなげることができるのではないかと考えた。

2つ目は、小豆島八十八ヶ所霊場を通して、たくさんの観光客に小豆島の自然の豊さ、小豆島の人の温かみを伝えることである。昨年度の活動で、同様に小豆島八十八ヶ所霊場の撮影を行ったが、その際、実際に訪れたメンバー自身が小豆島のまち並みや自然の美しさ、緑の豊かさを実際に体験することができた。そのような実際に現場に訪れてみないと分からない小豆島の魅力を観光客にぜひ知ってほしいと考えた。

このプロジェクトの概要は、ターゲットを若者や外国人に絞り、いままで小豆島八十八ヶ所霊場のことについて知らなくても親しみを持てるよう、小豆島八十八ヶ所霊場へ実際に自分たちの足で訪れ、各札所間の道中の撮影から編集まで行い、分かりやすい動画を作成し、SNSで発信を行うことである。さらには、各札所のご住職にご協力いただき、マップやチラシの作成を行うことである。

【取材時の様子】



2. 実施期間（実施日）

令和6年6月30日から令和7年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

今年度の活動内容の成果は、大きく分けて4つである。

1つ目は、動画を通して小豆島八十八ヶ所霊場について、たくさんの人々に注目していただいたことである。今年度は小豆島八十八ヶ所霊場を第28番薬師堂から第49番東林庵まで撮影を行い、撮影した動画をメンバーで編集した。この動画は、若者に簡単に見てもらえるInstagramに投稿した。最初に投稿した予告動画のインプレッション数は800回近くを記録した。さらに、第28番薬師堂から第29番風穴庵までの道中を紹介した動画に関しても約600回のインプレッション数を得ることができた。このことから、たくさんの人々に動画を見ていただけたことがうかがえる。

2つ目は、私たち小豆島プロジェクトをより知っていただけたことである。活動時に「小豆島プロジェクトの方ですよ」や「小豆島プロジェクトのSNSを見たよ」と地元住民に声をかけていただくことが事業前よりも増えた。このことより、この事業を通して、私たちの活動を知っていただけたことや、投稿しているSNSへの関心が高まっていることが分かる。

3つ目は、私たち小豆島プロジェクトと地域のつながりが深まったことである。寺社によっては、撮影している際にご住職とお会いすることができたり、話す機会をいただいたりすることができた。その際に、寺社に関する魅力についてもお聞きすることができたり、私たちのプロジェクトの活動についても知ってもらうことができたりした。さらに、私たちが実際に参加した小豆島霊場会「ふれあい徒歩大巡行」では、たくさんの知識をお持ちの高齢者と交流することができた。

4つ目は、チラシやマップの作成である。チラシは、私たちの小豆島八十八ヶ所霊場に関する取り組みを知ってほしいという思いから作成した。マップは、若者やたくさんの人々に、それぞれの寺社のおすすめポイントをぜひ見に行ってもらいたいという思いから、メンバーで話し合いながら工夫して作成した。小豆島霊場会の関係者にもお話をし、今後作成したチラシやマップは、SNSへの掲載や、ふれあい徒歩大巡行での配布、寺社での設置していただく予定となっている。また、チラシやマップの作成を通して、寺社のご住職からは、今後も若者ならではのアイデアをどんどん出してほしいと言っている。これらのことから、今年度の活動が小豆島八十八ヶ所霊場からも私たちのプロジェクトを受け入れていただいたと考えている。

【作成したチラシやマップ】



チラシ(表)

チラシ(裏)

マップ

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業により、地域の方々には、小豆島プロジェクトのみならず、香川大学の地域活性化に向けた取り組みについても知っていただけたと考えている。小豆島のなかで「香川大学の学生さんね」とお声がけいただくこともあるため、私たちの活動により、香川大学の地域活性化に向けた取り組み姿勢について知っていただいているのではないかと考えている。さらに、SNSでの活動投稿や地元タウン誌「NICETOWN」での連載により、香川大学の学生プロジェクトの取り組みについても広く発信することができている。

さらに、地域社会への影響としては、若者向けの発信を積極的に行うことで、より幅広い年齢層に小豆島八十八ヶ所霊場の魅力を発信することにつながっているため、小豆島八十八ヶ所霊場の寺社のご住職にこの活動を応援していただけていることがあげられる。今後も、小豆島八十八ヶ所霊場の寺社との関係を深め、継続的に小豆島八十八ヶ所の魅力をより多くの方々に知っていただきたいと考えている。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

私たちの学生生活に与えた影響は、小豆島への問題意識を向上させることができたことがあげられる。寺社のご住職との交流を通じて、現在の小豆島の課題や、その課題が小豆島八十八ヶ所霊場にもたらす影響など、様々な面でお話をうかがうことができた。そのようなお話を聞くことで、小豆島について改めて真摯に向き合う機会をいただくことができたため、学生自身の小豆島に対する問題意識が向上した。

また、マップを作成する際に、ご住職とのコミュニケーションを通じて、私たちのプロジェクトに対するモチベーションを向上させることができた。ご住職と楽しく意見交換を実施することで、たくさんの案をご提案していただいたため、プロジェクトの活動を見直す良い機会となった。いままでの考えに縛られない案をいただくことで、その案に対する具体的な能動的なアイデアがたくさん出てきたため、私たちのプロジェクトに対する姿勢が変化した。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点としては大きく分けて3つある。

1つ目は、計画性の不十分さである。計画を具体的に立てることができていなかったため、本来、年始に開始する予定であった動画投稿が大きくずれ込んでしまった。

2つ目は、成果物に対するフィードバックの受け取り方である。チラシやマップ、動画について、どのような評価を得ることができているのか、今後どのように改善していけばより多くの方々に見ていただけるのか、実際に私たちが観光客数に貢献できているのかなどを把握することができなかった。

3つ目は、認知度の不十分さである。小豆島内では地域との関係を深めることができたが、まだ小豆島外の方々に知っていただけていない状況である。そのため、小豆島八十八ヶ所霊場に関する取り組みについても、まだ知っていただける余地があると考えている。

これらの反省点を踏まえて、今後はもっと具体的に計画を立てる必要があると考えている。修正や確認の時期なども考慮して、もっと余裕をもって活動に取り組む必要性があると考えている。

また、フィードバックについては、より積極的にアンケートを活用していきたい。具体的には、Instagramのストーリーを活用して誰でも答えることができる簡易的なアンケートを実施により、今後の活動につなげていけるのではないかと考えている。

さらに、私たちの取り組みへの認知度を向上させるために、より積極的にプレスリリースを活用する必要があると考えている。そして、SNS も活用しながら、私たちの小豆島八十八ヶ所霊場に関する取り組みを発信していく予定である。

活動のなかで、小豆島のみなさんは私たちを温かく迎えてくださり、積極的にコミュニケーションをとってくださった。もっと小豆島の魅力を私たち学生ならではの活動でたくさんの人々に発信していきたいと考えている。小豆島八十八ヶ所霊場という誇るべき歴史・文化を若い世代に今後も積極的に広めていきたい。

7. 実施メンバー

代表者	山本 武	(経済学部 3 年)			
構成員	阿部 みづき	(経済学部 4 年)	角友 里帆	(経済学部 4 年)	
	上村 柊斗	(経済学部 4 年)	鈴木 愛	(経済学部 4 年)	
	関屋 京平	(経済学部 4 年)	近澤 采加	(経済学部 4 年)	
	森田 紘平	(経済学部 4 年)	山地 敬大	(経済学部 4 年)	
	樫村 達哉	(経済学部 3 年)	鈴木 さわ子	(経済学部 3 年)	
	垂水 遥菜	(経済学部 3 年)	南 佑樹	(経済学部 3 年)	
	山崎 香凜	(経済学部 3 年)	川上 聞太	(農学部 3 年)	
	水戸 凜太郎	(農学部 3 年)	脇本 泰成	(農学部 3 年)	
	浅川 彩華	(法学部 3 年)	浜行 航雅	(創造工学部 3 年)	
	井上 竣介	(経済学部 2 年)	田村 優稀	(経済学部 2 年)	
	羽根 瑞穂	(経済学部 2 年)	樋口 由芽	(経済学部 2 年)	
	槇 空	(経済学部 2 年)	吉原 理央	(創造工学部 2 年)	
	大川 美羽	(創造工学部 2 年)	岡田 隆之介	(創造工学部 2 年)	
	郷野 權	(経済学部 1 年)	小林 秀太	(経済学部 1 年)	
	小森 爽一郎	(経済学部 1 年)	高八重 真衣	(経済学部 1 年)	
	中村 仁士	(経済学部 1 年)	西出 明樹	(経済学部 1 年)	
	西森 心菜	(経済学部 1 年)	飛弾 悠真	(経済学部 1 年)	
	李 心怡	(経済学部 1 年)			

8. 執行経費内訳書

配 分 予 算 額		1 8 9 , 4 6 0 円		
執行経費 (品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
フェリー代	8	7 0 0	5, 6 0 0	
	4 2	1, 3 3 0	5 5, 8 6 0	
バス代	2 4	1 5 0	3, 6 0 0	
	1 2	2 0 0	2, 4 0 0	
	1 1	2 5 0	2, 7 5 0	
	3 5	3 0 0	1 0, 5 0 0	
ロープウェイ乗車代	3	2, 7 0 0	8, 1 0 0	
ツアー参加代	2	5, 0 0 0	1 0, 0 0 0	
スマートフォン用三軸ジンバル	1	1 0, 9 9 0	1 0, 9 9 0	
パンフレット・マップ制作	3 0 0		6 4, 3 5 0	
合 計			1 7 4, 1 5 0	